

たかばとくこ

大府市議会議員 (大東町)



2022 秋号  
**YOUR VOICE**

大府市議会  
無所属クラブ  
議会レポート



宮下しんじ

大府市議会議員 (共西町)

## コロナ禍が急拡大した令和3年度の行財政を総括する。

### 第4波、第5波の襲来

いわゆる「決算議会」と呼ばれる9月定例会、大府市議会でも令和3年度決算が審査されました。私たち無所属クラブは、「第4波、第5波の襲来で感染状況が急拡大した令和3年度の難局に対し、いかに総力を挙げて対応したか」、「多くの困難さのもとでも、発展的かつ持続可能なまちであり続けるため、どう努めたか」という視点から、以下の4点を軸に決算の精査を行いました。

- ① イベントや行事の縮小および中止
- ② 経済面、精神面で多くのストレスを抱え続けることとなった市民生活への支援およびセーフティネット
- ③ 感染症対策の専門部署として引き続き最前線に立った保健衛生行政としての取組
- ④ 市の行政経営全般への影響

特に④では、コロナ対応の多額の予算が国と県から流入したことが、市の財政状況の客観的、経年的把握を難しくしているのではないかと懸念から、2つの財政指標について、**宮下しんじ**が総務委員会で質疑し(中面参照)、**たかばとくこ**が行った本会議討論でも取り上げています。

### 令和3年度決算への討論

#### 無所属クラブの視点 **CHECK!**

##### ◆中心市街地整備事業

計画策定に向けた調査、検討の結果を引き続き注視する旨を意見。

##### ◆公共交通機関事業

市民の生活の足となるバスの重要性を改めて指摘。

##### ◆ふるさと納税

商品開発やPRと行った市内事業者の前向きな流れとなってきたことを評価。

##### ◆コロナ禍の保健行政

コロナ対応で多忙を極めた保健衛生部局の尽力に感謝。

##### ◆市役所の組織運営

全庁的な連携のもとでのコロナ対応を通じ、組織の改善・改革にもつなげられた点を評価。

##### ◆財政運営

コロナ対応に係る国、県からの多額の財源等、行政経営への影響が適切に把握、分析されていた点を評価。

危機対応をきめ細かく行いつつ、「サステナブル健康都市おおぶ」の発展的かつ持続可能な都市目標に向け、着実に歩みを進めていることが確認できたため、令和3年度決算に対して賛成としました。

### その他の議案に対する

#### 無所属クラブの見解・意見

##### 《9月定例会》 **賛成討論**

##### ◆一般会計補正予算(第7号)

「電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金」(国支出金)、高齢者等のインフルエンザ予防接種費用を4年度に限って無料とする「予防接種委託料」(県支出金)について、今も続くコロナ禍に対する国、県の新たな課題認識に基づく施策の速やかな遂行は、困窮する市民の経済的な苦難や社会の医療不安への大きな助けとなる。市独自の「子育て世帯生活応援特別給付金」も、コロナ禍の物価高騰が急激な円安進行でさらに深刻化している現状を鑑みれば、財源をコロナ対策基金から繰り入れて賄うことは、国の認識や方針とも齟齬のない妥当な判断。対象となる市民の皆さまに施策の恩恵と効果が速やかに行き渡るよう、その執行もスピーディーになされることを期待し、賛成とする。



## ようこそ議会へ！会派で3名の高校生インターンを受け入れ。

キャリア教育を専門に、学校ごとの要望に応じた社会体験プログラムを企画、推進している一般社団法人アスバシ様よりご依頼をいただき、無所属クラブでは、高校1年生3名のインターンを受け入れ、3日間の活動を実施しました。

議長との対談や、議場をはじめとする議会フロアおよび市役所庁舎内

の見学、まち歩きなど、本人たちの興味、関心も大事にしながら、議員の仕事、行政と議会の役割の違い、地域の大人たちとのふれあい、まちづくり、大府市の歴史や魅力等、様々なことを学んでもらいました。

観光、商工の関係団体の皆さまにも快くご協力いただき、心より感謝申し上げます。



大府の商工業や経済を学びました(上)

大府のキャッチコピーを考えよう(下)

### たかばとくこ 議員の職責の重さを胸に



ローカルマニフェスト推進連盟の東北勉強会に自費参加し、道中で東日本大震災の遺構を巡ってきました。

震災翌年に巡って以来、10年ぶりです。南三陸町防災対策庁舎はスーパー堤防に囲まれ、堤防の高さが庁舎と同じでは足りなかったことを伝えていました。10年前には、縁のない自分が近くまで足を踏み入れることがためられた石巻市の大川小学校跡も、今は遺構として整備されたことで、ご遺族や住民の方々がご了承くださった気がして、手を合わせながら、静かに考える時間をいただくことにしました。

それぞれのまちで住民の暮らしを守り、発展を願って築かれてきたものが一瞬で奪われた現場で、まちづくりを語り、意思決定を行う議員の職責の重さを改めて胸に刻みました。



津波復興祈念公園で  
献花と黙祷を捧げる  
(陸前高田市)

被災した防災対策  
庁舎の震災遺構  
(南三陸町)

たかばとくこ 検索



## 無所属クラブ 活動報告

Pick up



### 宮下しんじ 暮らし目線がすべての基点

コロナ禍で中止が続いてきた地域の様々な行事が、何らかの縮小や開催方法の変更等を伴いながらも、今年から続々と再開されるようになり、自分も地域住民の一人として、いろんなことに携わらせていただいています。新型コロナによって、生活様式や社会そのものの形などが大きく変わってしまった昨今、ありがたみを改めて強く感じたのが、地域のつながりの大切さです。

価値観や市民ニーズなどが今後も多様化していく時代にあって、一人ひとりがお互いを理解、尊重し、支えあう中で、誰もが居場所と生きがいのある社会にしていくには、生活の最も身近な場である地域でのつながりを、いかに風通し良く、しなやかな形で維持していくかという視点が欠かせません。今後もまち全体、市民全体の未来のために様々な提言を行っていくうえで、基盤となる日々の暮らしの目線が何より重要であることを、今任期の最後までしっかりと肝に銘じながら、引き続き市議としての活動に邁進してまいります。



長草盆踊り大会にて

宮下しんじ 検索





# 豪雨、暴風、地震—様々な災害にも安心・安全で暮らしやすい大府市をめざして

9月定例会 一般質問 たかばとくこ

## 大雨時の安全な避難と暴風、地震への備え強化を

この夏は、全国各地で大雨被害が報告され、震度5以上の地震も今年、福島県、岩手県、石川県、北海道と、各地で発生しています。これまでも防災士としての専門性を生かして、各地の事例とその対応について継続的に調査したり、市内で大雨が降った際には現地確認を行ったりしてきました。過去に大府が経験してきたことや、国内各地の最近の状況なども踏まえながら、災害発生時の備えに対する見解を改めて尋ねました。

まず、今年7月12日に発生した短時間の局地的な豪雨の対して警報が出なかった状況について質問し、「警報が出ていなくても、避難所や避難勧告の準備をしていた」こと、「道路や河川の巡回を行っていた」ことを確認しました。そのうえで、実際に道路冠水や川の越水があった箇所への対応を求め、さらに、ウェルネスバレー地区にもあたる半月川流域の治水対策の必要性を指摘しました。夜間を避けて明るい時間帯に避難したい市民に対して、警報発令前でも公民館等の空き室を提供できないかとの提案には、空き室があれば柔軟な対応もあり得るとしつつも、

「必ず対応できるとは限らないため、知人や親せき等の共助を基本に考えてほしい」との答弁でした。また、暴風や地震等に弱い旧基準の瓦屋根家屋については、「今のところ補助制度は考えていないが、啓発していく」とのこと、一歩前進です。

知多半島の風土とともに長い歴史がある「ため池」を、大雨時に治水施設、普段は多目的広場として活用する取組は現在、横根立会池の整備が進んでいます。川池の運用で寄せられた市民の声への対応や、今後の整備方針についても質問し、機能面や住民ニーズ、費用対効果等が条件になるとの見解が示されました。

職員を派遣したこと。「保健所に電話がつながりにくく、市への問い合わせも多かったため、市民対応に生かすことができた」ことなどが確認できました。

### ◆母子保健指導事業

コロナ禍で、人との交流や移動が控えられたうえ、里帰り出産や実家から手伝いを呼び寄せるのも難しくなった状況下で、孤立しやすかった妊産婦の対応はどうだったかを問いました。「保健センターから電話や訪問を行って、孤立しないよう努め、産後ケアなども紹介した」、「手助けが必要な2人目、3人目出産の方の

不安の声があった」といった答弁がありました。

### ◆学校総務管理事業

子どもたちの学びや様々な活動、経験など、学校もコロナ禍で多くの制約を受けましたが、それらへのカバーにどれだけ努めたかを質しました。「泊まりを日帰りにするなど、縮小しても方法を考えて工夫したことや、「マスクや着用や黙食など、コミュニケーションが取りづらくなっている点を認識してケアに努めた」ことなどが確認できました。

# 中学校部活動の「地域移行」持続可能なあり方を模索する契機に—

9月定例会 一般質問 宮下しんご



## 国の動きを注視しながら一歩ずつ着実な課題解決を

今年6月に運動部、8月に文化部について、それぞれ「部活動の地域移行に関する提言」がスポーツ庁、文化庁の検討会議より出され、いよいよ来年度から、地域移行に向けた「改革集中期間」がスタートします。

関係者間の連絡・調整等を行うコーディネーターの自治体への配置や、指導者確保のための人材バンク設置の後押し、困窮家庭の生徒への財政的な支援など、すでに文部科学省は来年度に向けた関連予算の概算

要求に、80億円あまりを盛り込む方針ですが、計画に示された「改革期間」はわずかに3か年度。この間に幅広い周知を行い、生徒と保護者、学校、スポーツ団体や地域等、想定される多様な関係者との間で理解の共有を図り、協力を得ながら円滑に進めていくことは、決して容易ではありません。

すでに本市は大府南中での試行を経て、令和2年度からは全中学校に独自の「部活動指導員」を導入している点で一日の長がある一方、今後、国が求める施策の方向性や手法との間に齟齬を生じさせないように、推移を慎重に見定めながら進める必要が

あることから、中学校部活動の現状の課題や将来像をどのように考えているか、市教育部局の見解を尋ねました。

教育部長からは、来年度以降の国の動きに対する本市の実情と課題について、「すべての部に外部指導員を配置しているわけではなく、まだ多くの部活動では教員が指導を担当しているのが現状」との答弁があり、再質問では、これに対し、市独自の外部指導員が単独では指導できない点を確認。国の制度並みに単独でも指導できる部活指導員の拡充が必要である旨、改めて指摘しました。

## 総務委員会

### 令和3年度 決算審査

#### ◆国のコロナ関連予算による影響

経常収支比率（経常経費が支出全体に占めるの割合＝財政の柔軟性を測る指標）と自主財源比率（自治体の自主的な収入が歳入全体に占める割合）が、コロナ禍以前との比較で、引き続き低い数値となっている点について、所管の法務財政課に見解を尋ねました。これは、令和3年度も平時と異なる環境のもとでの行財政運営となったことを踏まえ、国・県から大量流入したコロナ関連予算が

市の“お財布”に与えた影響を確認し、特に、数字上は確かに好転している経常収支比率の実情を明らかにすることで、財政状況の経年比較を客観的に把握するためです。

#### ～コロナ禍なのに“財政の柔軟性”が改善した本当の理由～

法務財政課は答弁で、「決算統計上、感染症対策の経費は臨時的経費に整理されるため、経常収支比率への影響は軽微」とした一方で、自主財源比率については、「感染症対策に係る国や県の支出金の大きな増加により、数値が著しく低下した」と見解を述べました。国・県のコロナ

関連予算流入の影響は軽微であるとしながら、財政の柔軟性が改善した理由として法務財政課が挙げた要因は、固定的収入の増加に対して経常的経費が微減で推移したこと。

しかしながら、コロナ禍以前から増え続けている扶助費は3年度も25億円以上増加しており、経費の微減は不可思議な現象です。その点の疑問を再度尋ねると、扶助費増加の主要因である保育ニーズの伸びを、民間認可保育園の誘致でカバーしたことにより、「市の財政負担を大きく圧縮できたため」との分析が示されました。